

建国70周年を迎える中国の内憂外患

東京大学公共政策大学院院長
高^{たか}原^{はら}明^{あき}生^お

- * 権威と権力を手にした習近平
- * 高まる任期撤廃への批判
- * 私営企業家の不満
- * 李克強報告の率直な指摘
- * 財政問題がポイントに
- * 米国を甘く見た中国
- * 中朝に信頼関係はない
- * 日中関係が改善した背景
- * 交流通じて変化を手助け
- * 社会と体制の安定が優先



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は東京大学の高原先生においでいただき
ました。改めてご紹介の必要もないかと思いま
すが、中国のご専門でございます。米中の貿易
戦争、それからさまざまな問題で中国は内憂外
患でございます。これ幸いと中国は大変だとお
っしゃる方もおられますし、そうでないとい
う方もおられますので、今日は中国の実態につ
いて、ちょうど全人代の後でございますし、現在
の状況をどう見たらいいか、先生からじっくり
お話をいただきたいと思えます。それでは高原
先生よろしく願います。（拍手）

権威と権力を手にした習近平

高原 どうぞよろしく願います。今

日は寒い中おいでいただきましてどうもありが
とうございます。しかし中国はいつもながらた
いへんホットでございます。経済が減速してい
る中、その影響が社会や政治の安定にどこまで
及んでくるのか、そういうところが今年は見ど
ころではないかと思えます。

私は経済学者ではありませんので、経済の話
はあまり自信がないのですが、今申しましたよ
うに政治にも、ひいては外交にも、経済の状況
が影響を及ぼすということで、若干経済の問題
にも触れますが、まずは政治の動向についてお
さらいをおきたいと思えます。前回は一昨
年の共産党大会の直後にお邪魔いたしました。
この党大会において習近平さんの権威と権力の
集中がそうとうまた進んだということがあった